

# 会計学モデル・コア・カリキュラム(案)

社団法人私立大学情報教育協会  
会計学教育 IT 活用研究委員会

## 会計学入門

### 1. 会計の意義

#### (1) 一般目標

会計とは何か、会計学の体系、会計情報の特徴、会計マインド（会計倫理）、会計の社会的機能を理解させる

#### (2) 到達目標

- ① 会計とは何かを説明できるようにすること  
経済主体、経済活動、認識・測定・記録・伝達
- ② 会計の機能について説明できるようにすること  
合理的意思決定、所有と経営の分離、受託責任、利害調整機能
- ③ 会計学の体系を把握している  
簿記原理、財務会計、管理会計、監査、企業評価・分析、税務会計
- ④ 会計情報の特徴とその利用者(利害関係者)について理解できるようにすること  
企業を取り巻く利害関係者、必要とされる会計情報
- ⑤ 情報システムとしての会計の役割について説明できるようにすること  
会計情報システム、システム概念、システム構成
- ⑥ 会計に携わる者として必要とされる倫理観を身につけること  
会計倫理、会計マインド

### 2. 企業会計の特徴

#### (1) 一般目標

企業会計の特徴を企業形態と資本構造の関係で把握させ、企業会計を取り巻く法制度を理解させる

#### (2) 到達目標

- ① 企業形態と資本構造について説明できるようにすること  
企業形態（個人企業、株式会社等）とその資本関係、自己資本、他人資本、無限責任、間接有限責任、
- ② 企業が作成する財務諸表の種類とその役割について説明できるようにすること  
貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書
- ③ アカウンティング・サイクルについて説明できるようにすること  
予算編成→簿記上の取引→記帳→財務諸表の作成→分析→納税
- ④ 現行の企業を取り巻く法制度について説明できるようにすること  
企業会計原則、証券取引法、会社法、税法、トライアングル体制

### 3. 複式簿記

#### (1) 一般目標

取引、仕訳、勘定記入、試算表・精算表作成、決算、財務諸表にいたる簿記手続き一巡の理解させる

#### (2) 到達目標

- ① 簿記の意義と仕訳の法則の理解できるようにすること  
複式簿記、簿記上の取引、借方と貸方
- ② 仕訳から勘定口座への記入方法および期中取引が理解できるようにすること  
仕訳帳、転記、総勘定元帳
- ③ 決算予備手続きから本手続きへのプロセスの理解と財務諸表作成ができるようにすること  
試算表、棚卸表、決算整理、精算表、帳簿の締切、貸借対照表、損益計算書

### 4. 貸借対照表の読み方

#### (1) 一般目標

貸借対照表から得られる会計情報の特徴を知り、そこから何が読み取れるかを理解させる

#### (2) 到達目標

- ① 貸借対照表の意義・特徴を理解できるようにすること  
財政状態、資産、負債、資本、貸借対照表等式
- ② 貸借対照表の区分、配列、表示が理解できるようにすること  
貸借対照表の様式、流動・固定の区分方法、流動性配列法、表示方法
- ③ 財政状態の意味とその基本分析ができるようにすること  
調達源泉、運用形態、他人資本、自己資本
- ④ 実際の貸借対照表から必要な情報を収集し利用できること

### 5. 損益計算書の読み方

#### (1) 一般目標

損益計算書から得られる会計情報の特徴を知り、そこから何が読み取れるかを理解させる

#### (2) 到達目標

- ① 損益計算書の意義・特徴を理解できるようにすること  
経営成績、収益、費用、利益、損益計算書式
- ② 損益計算書の区分、配列、表示が理解できるようにすること  
損益計算書の様式、表示区分の方法、利益の階層構造
- ③ 経営成績の意味とその基本分析ができるようにすること  
売上総損益金額、営業損益金額、経常損益金額、税引前当期純損益金額、当期純損益金額
- ④ 実際の損益計算書から必要な情報を収集し利用できること

## 6. キャッシュ・フロー計算書の読み方

- (1) 一般目標  
キャッシュ・フロー計算書から得られる会計情報の特徴を知り、そこから何が読み取れるかを理解させる
- (2) 到達目標
  - ① キャッシュ・フロー計算書の意義・特徴を理解させるようにすること  
キャッシュの範囲、現金および現金同等物
  - ② キャッシュ・フロー計算書の区分、配列、表示を理解させるようにすること  
営業活動によるキャッシュ・フロー（直説法、間接法）、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、
  - ③ 実際のキャッシュ・フロー計算書から必要な情報を収集し利用できること

## 7. 連結財務諸表のしくみ

- (1) 一般目標  
連結会計制度の必要性、連結会計情報の特徴を知り、そこから何が読み取れるかを理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 連結財務諸表の必要性を理解できるようにすること  
親会社、子会社、支配従属関係、企業集団、連結の範囲、持株基準、支配力基準
  - ② 簡単な連結貸借対照表と連結損益計算書の作成事例を通して連結会計特有の処理、勘定科目を理解できるようにすること  
連結会社相互間の取引高の相殺消去、未実現利益の消去、連結調整勘定、少数株主持分
  - ③ 実際の連結財務諸表から必要な情報を収集できること

## 8. 演習Ⅰ～財務諸表の読み方～

- (1) 一般目標  
貸借対照表、損益計算書から企業の財務状況を把握する
- (2) 到達目標
  - ① 貸借対照表から企業の財政状態を読み取ることができるようになること  
流動比率、自己資本比率、固定比率
  - ② 損益計算書から企業の経営成績を読み取ることができるようになること  
売上高総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上高当期利益率
  - ③ 貸借対照表、損益計算書を総合的に活用し企業の基本的分析ができること  
総資本利益率（ROA）、株主資本利益率（ROE）

## 9. 原価の計算

- (1) 一般目標  
原価計算の必要性、原価の要素、計算手続き、計算方法を理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 原価計算の必要性を理解させるようにすること  
製品原価計算目的、原価管理目的
  - ② 原価要素の分類を理解させるようにすること  
材料費、労務費、経費、直接費、間接費、変動費、固定費
  - ③ 原価計算の計算手続きについて理解させるようにすること  
費目別計算、部門別計算、製品別計算
  - ④ 製品原価の計算方法について理解させるようにすること  
個別原価計算、総合原価計算

## 10. 経営管理のための会計

- (1) 一般目標  
管理会計の特徴・機能を財務会計と比較しながら理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 財務会計、管理会計の相違点を理解できるようにすること  
財務会計、管理会計、制度会計、外部報告会計、内部報告会計
  - ② 管理会計の必要性、内容を理解できるようにすること  
利益計画、投資計画、予算編成、資金計画、業績評価
  - ③ 利益計画を作成にあたり、具体的な計算ができるようにすること  
限界利益、損益分岐点、資本回収点、目標利益到達点

## 11. 演習Ⅱ～原価計算・利益計画～

- (1) 一般目標  
総合原価計算による製品原価算定のプロセスと利益計画の作成における基本的な数値計算を理解する
- (2) 到達目標
  - ① 総合原価計算の計算事例から製品原価の計算ができるようにすること
  - ② 利益計画の事例から限界利益、損益分岐点売上高、目標利益を達成する売上高等を算定できるようにすること

## 12. 国際会計

- (1) 一般目標  
会計基準の国際的調和化の現状と、国際会計基準について理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 会計基準の国際的調和化について理解させるようにすること  
多国籍企業、財務諸表の比較可能性、会計基準の調和化・収斂
  - ② 国際会計基準、国際財務報告基準について理解させるようにすること  
国際会計基準審議会（IASB）、国際財務報告基準（IFRS）

- ③ 国際会計基準に対する我が国の対応について理解させるようにすること  
b v 金融庁、財務会計基準機構、企業会計基準委員会

### 1.3. 税務会計

- (1) 一般目標  
税金の種類および課税所得の計算方法について理解し、企業会計と税務会計の相違点を理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 税金の種類について理解させるようにすること  
国税、地方税、直接税、間接税、法人税、所得税、消費税
  - ② 所得金額の計算方法について理解させるようにすること  
確定決算主義、益金、損金

### 1.4. 監査

- (1) 一般目標  
監査の必要性について理解し、わが国の監査制度について理解させる
- (2) 達成目標
  - ① 監査の必要性について理解させるようにすること  
会計監査、財務諸表、恣意性、主観的判断、公認会計士、監査報告書
  - ② 監査の種類について理解させるようにすること  
会計監査、業務監査、財務諸表監査、監査法人、外部監査、内部監査
  - ③ わが国の監査制度について理解させるようにすること  
会社法、証券取引法、監査基準、一般基準、実施基準、報告基準

### 1.5. 新しい会計学の領域

- (1) 一般目標  
環境会計、公会計など、新しい会計領域について、現状の会計との関係で理解させる
- (2) 到達目標  
それぞれの会計の概要、仕組みをについて理解させるようにすること

## 財務会計

### 1. 財務会計の本質と機能

- (1) 一般目標  
財務会計の本質と機能を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 経済的意思決定と利益情報の関係を説明できる。  
経済的意思決定、効率的資源配分、尺度としての利益、有用性、客観性、予測情報、事実情報
  - ② 企業の利益創出活動を例を使って説明できる。  
営業活動、投資活動、財務活動
  - ③ 会計の諸機能 — 測定と伝達を説明できる。  
記録、処理、報告
  - ④ 財務会計の特徴を説明できる。  
会計責任、対外部報告会計、利害調整会計、情報特性（客観的・過去の・貨幣的・集計的・定時的）
  - ⑤ 財務会計の規制的性格を説明できる。  
情報による規制、社会的公器としての会計、会計規範（道德律と法）、制度会計、トライアングル体制

### 2. 財務会計情報の構成要素

- (1) 一般目標  
財務会計情報を、財政状態、経営成績、キャッシュ・フローの観点から理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 財政状態の意味を説明できる。  
財政状態、資産、負債、資本（純資産）、貸借対照表
  - ② 経営成績の意味を説明できる。  
経営成績、収益、費用、利益、損益計算書
  - ③ キャッシュ・フローの意味を説明できる。  
キャッシュ・フロー、収入、支出、正味キャッシュ・フロー、キャッシュ・フロー計算書
  - ④ 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関係を説明できる。  
時点的情報と期間的信息、ストック情報とフロー情報、財産法と損益法
  - ⑤ 利益フローとキャッシュ・フローの関係を説明できる。  
期間損益計算、利益フローとキャッシュ・フローの食違い、黒字倒産

### 3. 会計基準

- (1) 一般目標  
会計基準を、会計準、概念的枠組みなどの基礎的概念と絡めて理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 会計基準の意義を説明できる。  
統一性と弾力性、実際型と理想型
  - ② 会計基準の基礎概念を解説できる。  
コンベンション、会計準、概念的枠組み
  - ③ 会計基準の設定機関について説明できる。  
プライベート・セクター方式、財務会計基準機構、企業会計基準委員会、FASB、IASB
  - ④ わが国の会計基準の歴史を簡単に説明できる。

- ⑤ 「企業会計原則」、商法・税法との調整、会計ビッグバン、会計基準のグローバル化  
「企業会計原則」一般原則の概略を説明できる。  
真実性、正規の簿記、資本と利益の区分、明瞭性、継続性、保守主義、単一性、重要性の各原則
- ⑥ 概念フレームワークの概略を説明できる。  
会計情報の質的特性、財務諸表の構成要素、財務諸表における認識と測定

#### 4. 損益計算の基本原則

- (1) 一般目標  
損益計算の基本的原理を、利益の概念と計算方法を結びつけて理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 利益概念の絶対性と相対性を説明できる。  
絶対的利益概念と相対的利益概念、利益観と計算方法、真の利益、利益概念の抽象性
  - ② 損益法的利益計算と財産法的利益計算の関係を説明できる。  
取引主義、費用配分、擬似取引主義、評価益、資産負債アプローチ、収益費用アプローチ
  - ③ 損益法と財産法の利益観の対比を説明できる。  
包括利益、純利益、投資利益（将来的利益）、情報ニーズの変化
  - ④ 損益計算の基礎概念を説明できる。  
期間損益計算、現金主義と発生主義、実現主義、費用配分、収益費用の対応、損益修正、評価損益

#### 5. 収益の認識と測定

- (1) 一般目標  
収益の認識と測定に関する基本概念と具体的計算方法を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 収益の種類と区分について説明できる。  
営業収益、営業外収益、特別利益
  - ② 収益の具体的認識基準を説明できる。  
販売基準、工事完成基準、収穫基準、工事進行基準、回収基準、割賦基準
  - ③ 特殊な商品販売における実現主義の適用を説明できる。  
委託販売、試用販売、予約販売、割賦販売
  - ④ 費用の具体的認識基準を説明できる。  
配分法、見積法、支出基準
  - ⑤ 収益・費用の計上を具体的計算例を使って説明できる。  
簡単な計算例による収益・費用の認識と測定

#### 6. 資産会計（1）—本質・評価・分類

- (1) 一般目標  
資産の本質・評価・分類の概念的特徴と具体的な各種資産の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 資産の本質を説明できる。  
資産本質論争（一元説、二元説）、貨幣性資産・費用性資産・用役性資産説
  - ② 資産の評価基準と資本維持思考について理解できる。  
原価、修正原価、時価、割引現価、名目・実質・実体資本維持
  - ③ 資産の分類を理解できる。  
流動資産・固定資産、正常営業循環基準、ワン・イヤールール
  - ④ 棚卸資産・固定資産・繰延資産の意味と内容を理解できる。  
各資産の意味と内容について理解できる。

#### 7. 資産会計（2）—現金預金・金銭債権・有価証券（金融商品）

- (1) 一般目標  
現金預金・金銭債権・有価証券・その他の金融商品の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 現金預金の意味と内容を理解できる。  
通貨代用証券、当座預金とその他の預金、小口現金制度、銀行勘定調整表
  - ② 金銭債権の意味と内容を理解できる。  
売上債権とその他の債権、貸倒見積額の設定と表示
  - ③ 有価証券の意味と内容を理解できる。  
有価証券の取得と売却、有価証券の評価、自己株式の処理
  - ④ その他の金融商品の意味と内容を理解できる。  
その他の金融商品の範囲と発生・消滅・評価・貸倒・ヘッジ

#### 8. 資産会計（3）—棚卸資産

- (1) 一般目標  
棚卸資産の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 棚卸資産の原価集合（取得原価の決定）を説明できる。  
棚卸資産の取得と管理
  - ② 棚卸資産の原価配分（売上原価の決定）を説明できる。  
継続記録法、棚卸計算法、個別法、先入先出法、移動平均法、後入先出法、総平均法
  - ③ 棚卸資産費用の間接的計算の仕方を説明できる。  
売価還元法、最終取得原価法
  - ④ 棚卸減耗損、棚卸評価損、商品評価損の計算の仕方を説明できる。  
簡単な計算例による売上原価、棚卸減耗損、棚卸評価損、商品評価損の計算

## 9. 資産会計（４）—固定資産

- (1) 一般目標  
固定資産の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 固定資産の原価集合（取得原価の決定）を説明できる。  
固定資産の取得と管理、収益的支出と資本的支出
  - ② 固定資産の原価配分（減価償却費の決定）を説明できる。  
減価償却観、減価償却方法、総合償却、除却と取替
  - ③ 無形固定資産の意味と内容を説明できる。  
特許権や営業権の取得と償却
  - ④ 投資その他の資産の意味と内容を理解できる。  
投資有価証券、長期前払費用などの取得・評価・売却
  - ⑤ 固定資産の減損処理の意味と内容を理解できる。  
減損の発生、認識、測定

## 10. 資産会計（５）—繰延資産・研究開発費用

- (1) 一般目標  
繰延資産と研究開発費用の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 繰延資産に関する会計の論理を説明できる。  
将来の期間に影響する費用、前払費用、臨時巨額の損失、費用の繰延処理、繰延資産と償却
  - ② 繰延資産に対する会社法の論理を説明できる。  
真正資産、擬制資産、計上任意、早期償却、配当制限、「研究開発費会計基準」との関係
  - ③ 繰延資産の種類と内容を説明できる。  
創立費、開業費、開発費、新株発行費、社債発行費、社債発行差金
  - ④ 研究開発費用の会計処理を説明できる。  
「研究」と「開発」の概念、研究開発費用の発生時費用処理、ソフトウェア制作費

## 11. 負債会計

- (1) 一般目標  
負債会計の本質・評価・分類の概念的特徴と具体的な各種負債の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 負債の本質を説明できる。  
法的債務、会計的負債、経済的負債、未履行契約債務
  - ② 負債の種類と分類を説明できる。  
金銭債務、負債性引当金、流動負債、固定負債、正常営業循環基準とワン・イヤールール
  - ③ 社債に関する具体的問題を説明できる。  
社債の意義と種類、社債の発行・利払・決算時・償還時の処理
  - ④ 社債の評価問題を、具体例を使って説明できる。  
額面価額主義、発行価額主義、社債発行差金の性格(前払費用説、繰延資産説、負債評価勘定説)
  - ⑤ 引当金に対する会社法の論理を説明できる。  
真正負債、犠牲負債、債務たる引当金、債務性のない引当金
  - ⑥ 引当金の内容と種類を説明できる。  
評価性引当金、負債性引当金、利益性引当金、租税特別措置法・特別法上の準備金
  - ⑦ 退職給付債務を具体的例を使って説明できる。  
退職給付引当金、退職給付債務

## 12. 資本会計（純資産の会計）

- (1) 一般目標  
資本会計（純資産の会計）の本質・評価・分類の概念的特徴と具体的な各種資本の問題点を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 資本の本質と分類を説明できる。  
純資産、残余持分、損益取引と資本取引、法律的分類と経済的分類
  - ② 資本と利益の区別に関する問題点が説明できる。  
自己株式(資産説・資本控除説)、国庫補助金など(圧縮記帳、税の繰延)、欠損填補のパターン
  - ③ 資本(株主資本)の具体的処理を説明できる。  
設立時・新株発行時の処理、増資・減資時における処理(有償・無償増資、有償・無償減資など)
  - ④ 合併差益・保険差益について具体例を使って説明できる。  
パーチェス説、持分プーリング説、保険差益の資本性
  - ⑤ 純資産の部の表示と株主資本等変動計算書を説明できる。  
株主資本、評価・換算差額等、新株予約権、株主資本等変動計算書
  - ⑥ 剰余金の配当を具体例を使って説明できる。  
剰余金の配当、分配可能額

## 13. 損益計算書と貸借対照表

- (1) 一般目標  
損益計算書と貸借対照表の内容と形式を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 損益計算書の区分表示の意味と内容を説明できる。  
営業損益計算、経常損益計算、純損益計算、未処分利益計算
  - ② 損益計算書の作成上の注意点を説明できる。

- ③ 総額主義、発生源別表示、重要性の原則、形式的継続性、注記  
包括主義損益計算書と当期業績主義損益計算書の異同を説明できる。  
包括主義的利益、当期業績主義的利益
- ④ 貸借対照表の区分表示の意味と内容を説明できる。  
流動・固定分類（再説）、純資産の部の表示（再説）
- ⑤ 貸借対照表の作成上の注意点を説明できる。  
貸借対照表完全性、総額主義、流動・固定分類基準、科目配列法（流動性配列法と固定性配列法）、重要性の原則、形式的継続性、注記

#### 14. キャッシュ・フロー計算書およびその他の財務諸表

- (1) 一般目標  
キャッシュ・フロー計算書およびその他の財務諸表の内容と形式を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① キャッシュの概念とキャッシュ・フローの活動別分類を説明できる。  
現金同等物、営業活動・投資活動・財務活動によるキャッシュ・フロー
  - ② キャッシュ・フロー計算における直接法と間接法の相違を説明できる。  
直接法、間接法、その長所と短所
  - ③ キャッシュ・フロー計算書の作成を、具体例を使って説明できる。  
仕訳、キャッシュ・フロー勘定への置換え
  - ④ 財務報告の範囲を説明できる。  
財務諸表(本体)、注記、補足情報、その他の財務報告手段、その他の手段
  - ⑤ 基本財務諸表の範囲を説明できる。  
企業会計原則・財務諸表等規則・会社法における財務諸表(決算書類)、決算公告、営業報告書
  - ⑥ 中間財務諸表の意味と内容について説明できる。  
実績主義と予報主義、正規の決算と中間決算、正規の監査手続きと簡略な監査手続き
  - ⑦ 電子情報開示の意義と検索方法を説明できる。  
情報化社会、EDINET

#### 15. 連結会計

- (1) 一般目標  
連結財務諸表の意義と作成方法を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 連結財務諸表の意義を説明できる。  
企業活動の複雑化・国際化・集団化、法律実体と経済実体、親会社・子会社・関連会社
  - ② 連結の範囲を、具体的例を使って説明できる。  
持株基準、実質的支配、支配力基準、影響力基準
  - ③ 連結財務諸表の一般原則を説明できる。  
真实性の原則、基準性の原則、明瞭製の原則、継続性の原則
  - ④ 連結貸借対照表の作成を、具体的例を使って説明できる。  
投資と資本の相殺、債権・債務の相殺、連結調整勘定、少数株主持分
  - ⑤ 連結損益計算書の作成を、具体的例を使って説明できる。  
内部取引の相殺消去、未実現損益の消去、少数株主損益の計上、連結調整勘定の償却
  - ⑥ 連結剰余金計算書の作成を、具体的例を使って説明できる。  
確定方式、繰上方式
  - ⑦ 持分法について具体的例を使って説明できる。  
投資損益の処理、投資差額の処理、未実現利益の処理

#### 管理会計

##### 1. 管理会計とはなにか

- (1) 一般目標  
管理会計の特徴を財務会計と比較しながら理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 会計は、企業の活動を貨幣単位を使用して説明する手法であることを説明できる。  
企業活動を営業活動、投資活動、財務活動として把握
  - ② 財務会計と管理会計について、その目的など異同を説明できる  
財務会計：外部報告会計（利害関係者のための会計） 報告の定型的ルールが存在  
管理会計：内部報告会計（経営者のための会計） 報告の定型的ルールはない

##### 2. 経営管理のための会計

- (1) 一般目標  
管理会計の特徴、機能を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 経営戦略（夢）と戦術（計画）との違いが説明できる。
  - ② 経営プロセスを説明できる。  
計画(Plan) ⇒ 実行(Do) ⇒ 評価(Check) ⇒ 補正行動(Action)
  - ③ 管理プロセスを説明できる。  
評価は、実績値と計画値とを比較して行う。  
評価用データが適時に提供できることが前提条件である。
  - ④ 管理会計は、管理プロセスを支援することを説明できる。  
原価計算：製品コストの把握、適正なコスト評価、販売価格の決定  
財務分析：経営の現状を把握する

3. 財務諸表から得られる会計情報とは

- (1) 一般目標  
B/S、P/L、C/Fの構造を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 貸借対照表の機能と得られる情報について説明できる。  
貸借対照表の構造  
資金の源泉・使途、流動・固定の意味、総資本の意味
  - ② 損益計算書の機能と得られる情報について説明できる。  
損益計算書の構造  
いろいろな利益
  - ③ キャッシュ・フロー計算書の機能と得られる情報について説明できる。  
キャッシュ・フロー計算書の構造

4. 財務諸表を分析して得られる情報とは

- (1) 一般目標  
財務情報を利用して、判断基準としての分析内容を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 財務分析の目的と分析値の利用形態を説明できる。
  - ② 業種比較、同業者比較、自社過年度比較

4. 1. 投下資本は効率的に運用されたか

- (1) 一般目標  
ROA、ROEなどの指標の意味とデュポンシステムを理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 投資効率を把握する考え方を説明できる。
  - ② 総資産利益率（ROA）を説明できる。
  - ③ 株主資本利益率（ROE）を説明できる。
  - ④ 回転率と利益率の関係を説明できる  
効率性 収益性

4. 2. 財務状態は安全か

- (1) 一般目標  
流動比率と自己資本比率を理解させる
- (2) 到達目標
  - ① 流動比率は短期的な安全性を評価する指標であることを説明できる。
  - ② 自己資本比率は長期的な安全性を評価する指標であることを説明できる。

4. 3. 効率性は高いか

- (1) 一般目標  
回転率と運転資金への影響を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 回転率の意義を概説できる。
  - ② 回転率の差が運転資金へ与える影響を概説できる。

4. 4. 資金の利用は効率的か

- (1) 一般目標  
営業キャッシュフロー分析を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 営業キャッシュフローを概説できる。
  - ② キャッシュフローマージン等を概説できる。

5. 利益獲得の考え方

- (1) 一般目標  
目標利益の考え方を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 利益計画を概説できる。
  - ② 利益の考え方を説明できる。

5. 1. 利益獲得の簡易モデルとは

- (1) 一般目標  
損益分岐点分析手法を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 費用は、大別して固定費、変動費に分けることを説明できる。
  - ② マージン（限界利益）を説明できる。
  - ③ 操業度を説明できる。
  - ④ 損益分岐点分析を例を示して説明できる。

5. 2. 簡易モデルを利用して1年後の経営状態・財政状態の予測をしよう（1）

- (1) 一般目標  
例えばパン屋の例を用い、目標売上高を求める方法を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 簡易に固定費を予測する方法を説明できる。
  - ② 材料等の変更が変動費に反映することを説明できる。
  - ③ 操業度により売上高が制約されることを説明できる。

5. 3. 簡易モデルを利用して1年後の経営状態・財政状態の予測をしよう（2）

- (1) 一般目標

例えばパン屋の例を用い、簡単な予想損益計算書・予想貸借対照表を作成する。

- (2) 到達目標
  - ① 予想損益計算書を作成できる。
  - ② 予想売上高と回転率から、営業債権、営業債務、在庫を求められることを説明できる
  - ③ 予想貸借対照表を作成できる。
  - ④ 予想貸借対照表を用い、財務安定性を評価できる。

#### 6. 製造原価を引き下げするには

- (1) 一般目標  
標準原価計算と直接原価計算の機能を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 原価計算は、製品のコスト管理を行なう手法であることを説明できる。
  - ② 原価計算は、プロダクトミックスのための情報を提供することを説明できる。
  - ③ 標準原価計算の考え方を概説できる。
  - ④ 直接原価計算の考え方を概説できる。

#### 7. 予算の機能はなにか

- (1) 一般目標  
予算は、経営責任を明確化した具体的な経営計画の具体案であることを理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 予算は、管理部門ごとに展開された詳細計画である。
  - ② 予算は、管理目標である。
  - ③ 予算は、管理部門ごとに理解でき、管理しやすい目標に展開させる。

#### 8. 経営判断—各プランの比較をするには

- (1) 一般目標  
経営判断の基本情報である、各種プランの比較手法（特殊原価調査）を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 機会原価を用いた比較を例を示して説明できる。
  - ② 差額原価を用いた比較を例を示して説明できる。
  - ③ 埋没原価を例を示して説明できる。

#### 9. 経営判断—投資の採算性を調べるには

- (1) 一般目標  
設備投資の採算性を評価する手法を理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 回収期間法を概説できる。
  - ② 内部利益率法を概説できる。
  - ③ 現在価値法を概説できる。

#### 10. 原価計算で求めた原価は正しいか

- (1) 一般目標  
従来からの原価計算が有効でない事例があることを理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① 製造環境の変化が原価計算に与える影響を説明できる。
  - ② ABCを概説できる。
  - ③ ABMを概説できる。

#### 11. バランススコアカードとは

- (1) 一般目標  
非財務数値も管理に役立つことを理解させる。
- (2) 到達目標
  - ① バランススコアカードを概説できる。
  - ② 戦略マップを概説できる。

### 会計情報システム

#### 1. 会計情報システムの概要

- (1) 一般目標  
会計情報システム（以下 AIS と略す）とは何かについて概説できる。
- (2) 到達目標
  - ① 会計情報は会社の経済活動における意思決定に有用な情報の一つであることを説明できる。
  - ② 会計の機能は経済活動を記録し報告する機能であることを説明できる。
  - ③ AIS を勉強することの重要性について説明できる。

#### 2. AIS アプリケーションの利用による AIS の理解

- (1) 一般目標  
AIS へのインプットとしての経営活動とアウトプットの活用としての意思決定について説明できる。
- (2) 到達目標
  - ① 取引処理システム（総勘定元帳・報告システム）は経済活動を記録し、利用者に報告するための情報を作成するものであることを説明できる。
  - ② AIS を利用者の意思決定との関係から説明できる。

### 3. ハードウェアとソフトウェア

- (1) 一般目標  
情報システムを構成するハードウェアとソフトウェアを説明できる。
- (2) 到達目標
  - ① コンピュータを構成する装置を説明できる。
  - ② コンピュータを利用する技術を説明できる。

### 4. プログラム構造

- (1) 一般目標  
情報処理のためのプログラムの構造について述べるができる。
- (2) 到達目標
  - ① 情報処理のためのプログラムを作成する方法を説明できる。
  - ② 情報処理のためのプログラムを記述できる。

### 5. 情報ネットワーク

- (1) 一般目標  
情報の伝達手段としてのネットワークについて述べるができる。
- (2) 到達目標
  - ① データ通信システムのしくみについて述べるができる。
  - ② コンピュータネットワークの構成について述べるができる。
  - ③ インターネットの接続形態について述べるができる。

### 6. 情報システムの要素

- (1) 一般目標  
情報システムの基本的な要素の意味を説明できる。
- (2) 到達目標
  - ① 情報を処理するためのコード化の必要性について述べるができる。
  - ② 情報を処理するためのファイル、テーブルの役割について述べるができる。
  - ③ 情報を処理するためのフローチャートを記述することができる。

### 7. AISのシステム分析と設計

- (1) 一般目標  
システムを構築する方法について述べるができる。
- (2) 到達目標
  - ① システムを構築するためのシステム分析の方法 (DFD など) を利用できる。
  - ② システムを構築する方法の一つとしてデータベース設計のための方法 (ER 図など) を利用できる。
  - ③ システムを構築するためにコーディングの方法 (SQL など) を利用できる。

### 8. 経営情報システムの開発・設計

- (1) 一般目標  
経営情報システムとは何かを説明し、設計し、運用する方法について概説できる。
- (2) 到達目標
  - ① 購買活動とは何か、データの発生・流れを説明することができる。
  - ② 販売活動とは何か、データの発生・流れを説明することができる。
  - ③ 製造活動とは何か、データの発生・流れを説明することができる。

### 9. 取引処理システム（総勘定元帳・報告システム）の開発・設計

- (1) 一般目標  
取引処理システムとは何かを説明することができる。
- (2) 到達目標
  - ① 経済活動において生じるデータを記録し、分類し、集計して会計情報を作成する過程を説明することができる。
  - ② 経済活動において生じるデータして会計情報を作成する方法を説明することができる。

### 10. AISの管理

- (1) 一般目標  
情報システムを管理する方法について述べるができる。
- (2) 到達目標
  - ① システムにネットワーク等を利用して入力する方法について述べるができる。
  - ② ネットワークと連結したシステムの機密保護の方法について述べるができる。
  - ③ システムに関連する正確性と信頼性を確保する方法について述べるができる。

### 11. システム監査

- (1) 一般目標  
システム監査とは何かについて概説できる。
- (2) 到達目標
  - ① システム監査の目的として、信頼性・安全性・効率性の向上について述べるができる。
  - ② システム監査の対象は組織体の全領域にわたる情報システムであることについて述べるができる。
  - ③ システム監査の実施手順である準備・予備調査・本調査・評価について述べるができる。

### 12. AISの内部統制

- (1) 一般目標

AIS の内部統制とは何かについて概説できる。

(2) 到達目標

- ① 内部統制は会計情報の正確性・信頼性を保証する統制であるということについて述べることができる。
- ② 入力業務・処理業務・出力業務の統制について述べることができる。

1 3. AIS のセキュリティ対策

(1) 一般目標

AIS の機密性・保全性・可用性を確保するとは何かについて概説できる。

(2) 到達目標

- ① 設備・機器の設置環境面での対策について概説できる。
- ② システムの技術面での対策について概説できる。

1 4. AIS と意思決定

(1) 一般目標

経営管理機能を遂行するために必要な会計情報とは何かについて概説できる。

(2) 到達目標

- ① 経営意思決定プロセスについて概説できる。
- ② 経営管理者層別・問題処理法別の経営者忠決定に対応した情報システムについて概説できる。